

整形外科における手術に対する患者の心理

患者実態調査を実施して

副島整形外科病院 手術室看護師 大山直己／古川賢志／小野大輔／西島恵理香
佐賀大学医学系研究科博士課程・副島整形外科病院看護部教育担当 岩本利恵
副島整形外科病院 総看護師長 谷川壽栄

研究目的

手術を受ける患者の心理は複雑であり、安心して手術を受けられることが周手術期看護では重要である。しかし、近年では医療制度の改革による平均在院日数の短縮により、術前看護は短時間で効果的に実施する必要がある、十分な援助ができない現状にある。

当院の手術室では、局所麻酔および緊急手術以外の全症例に術前訪問を実施している。また、術前パンフレットを各病室に設置し、患者の不安軽減に努めている。しかし、術前訪問およびパンフレットは患者の心理を把握して作成したものではないため、効果的な術前訪問やパンフレットであるのか疑問である。短時間で効果的な術前看護を提供するために、患者の心理を明らかにすることはたいへん重要である。

そこで今回、患者の手術に対する思いや現状の術前訪問についてアンケート調査を実施した。その結果、整形外科手術を受ける前の患者の心理が明らかになり、今後の効果的な術前訪問への示唆を得たのでここに報告する。

研究方法

1…調査期間

2006年10月1日～2006年12月30日。

2…対象者

病院に入院し手術を受ける患者で、術前訪問を行った患者。

3…研究方法

1) アンケート作成

調査内容は、①基本データ（年齢、性別、手術歴の有無、手術部位）、②手術に対する不安19項目（手術に関する不安4項目、麻酔に関する不安4項目、痛みに関する不安4項目、術後に関する不安7項目）、③術前訪問に対する9項目、④自由記載2項目の3つである。①から③までは5段階評定尺度（「不安はなかった」の1点から「非常に不安だった」の5点）で点数化した。

2) アンケートの実施

アンケートは、手術室看護師が術前訪問時に配布し、回収箱で回収した。

4…分析方法

統計解析ソフト SPSS for windows 15.0J を使用し、単純集計して分析した。術後についての7項目（35点満点）は、比較分析のために20点満点と換算した。記述統計、男女間・手術歴の有無

